



# Le Journal de l' Etoile.

## 創立記念式典(後半)

今年で暁星学園は134周年を迎えました。創立記念式典の中でフォトジャーナリストの佐藤慧さんの話を伺いました。その中で僕は2つのことを学びました。1つ目はこの世界をひとつの平和として括ってはいけないということです。僕は、今自分たちが住んでいるこの日本という国以外ではどのようなことが起きているのかを知らずに、自分達だけが安心して暮らせているという現状に溺れてしまっているのではないかと思います。僕たちは当たり前のように学校という場所で授業を受けられて、おいしいご飯を食べられるということにもっと感謝をして過ごしていくことが大切だと感じました。次に、「いつくしみ」についてです。今回の講演のテーマはいつくしみとはなんだろうというものでした。

僕はなんとなく宗教の授業でいつくしみという言葉を使っていました。しかし、本当にいつくしむとは悲しみやそこから気づく希望などを感じたものの上にいつくしむという言葉があるのだと感じました。これから沢山の苦難や悲しみにぶつかっても悲しいだけではなく行動をおこしてあらたに発見を見つけられるように頑張ってお過ごしていきたいです。(中2 S.K)

11月1日は暁星中学校の134回目の創立記念日で7年ぶりに佐藤慧さんが話しにいらしたので、その話をします。佐藤さんはフォトジャーナリストの仕事をしていてつい最近ウクライナに行って取材をしてきました。ウクライナでは病院にいたサラちゃんに取材を受けてもらいました。サラちゃんは8歳なのに戦争でお兄ちゃんを亡くしてしまい、サラちゃん自身も右足を無くしてしまいました。その時サラちゃんは佐藤さんに「なぜ私は何も悪いことをしていないのにこういう目にあわなければならないの？戦争を止めてと大きな人に言って」と言われました。サラちゃんが言った大きな人とは僕が思うには偉い人だと思います。これを言われた時、僕はちょっと悲しくなりました。なぜなら、この日本という国は他の国に比べれば平和の方で、そんなふうに身近な人をなくすことはあまりないけれど、現在でも戦争をやっているウクライナのような国では1日でもすごい量の人が死んでいます。こう思うと心が痛くなります。この講演を聞いて、ちょっとでも戦争をなくすために行動をしたいと思いました。(中2 Y.S)